

新たな大津市観光計画策定に関する意見交換会（第5回目）

議事録

1 開催日時・場所

日時：令和8年2月16日(月)10時30分～

場所：大津市役所本館5階 251会議室

2 次第

開会

議事

1.パブリックコメントでの意見内容と市の考え方【資料1】

2.第4期大津市観光交流基本計画（案）【資料2-1】【資料2-2】

3.第4期大津市観光交流基本計画の推進に向けて【資料3】

その他（今後の予定について）

3月上旬 計画最終版完成

3月末 計画策定

大津市産業観光部長 挨拶

閉会

3 出席者

(順不同、敬称略)

所属	役職	氏名
阪南大学 国際学部国際観光学科	教授	福本 賢太
(公社)びわ湖大津観光協会	専務理事 (兼事務局長)	宮本 説三
おごと温泉旅館協同組合 おごと温泉観光協会	理事長 会長	池見 喜博
京阪ホールディングス(株) (一社)比叡山・びわ湖 DMO	経営企画室体験価値共創担当 課長 CMO(データ分析・マーケティング 責任者)	片岡 大祐
湖信会 (公社)びわ湖大津観光協会	園城寺 (三井寺) 執事長 副会長	福家 紀明
びわ湖大津プリンスホテル	総支配人	中山 隆之
(有)至誠庵 (一社)石山観光協会	取締役 副会長	井上 貫太
(株)きゅうべえ	代表取締役	谷口 創太
(一社)シガーシガ	代表	岡山 泰士
(株)らくたび	代表取締役	若村 亮

(事務局) 産業観光部 観光振興課

(委託事業者) (株)リクルート

4 会議内容

(1) 開会

配布資料の確認。

(2) 議事

パブリックコメントでの意見内容と市の考え方について

- ・事務局よりパブリックコメントの内容報告

募集期間：2025年12月25日から2026年1月13日まで

提出人数と件数：11名より合計25件

いただいたご意見については、今後の施策等の参考にしていく。

ご意見を踏まえて、計画(案)の変更点は下記2点。

- ①「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記。
- ②「施策3 インバウンド対応を含めた観光インフラ・受入環境の整備」に「伝統的な街並みや景観などを活用した歴史まちづくり」の文言を追記。

第4期大津市観光交流基本計画（案）について

・事務局より報告

今回の意見交換会で出た意見を反映し、3月中に本計画を確定する予定。

前回の意見交換会から変更した計画（案）の内容を説明。（主に財源とびわ湖大津観光協会のDMO登録について追記。名簿・会議実施内容・調査一覧・用語集を添付。）

現在それぞれの団体が担う役割が入り乱れているため、将来的には35ページ「3.観光まちづくりに向けた目指すべき推進体制の構築」のように変更していきたい。

発言者A

第3期計画より、財源やDMOについて加筆され、巻末の用語集などを追加したことが今期の変更点になるが意見はないか。

発言者B

観光協会の事業には色々な案件があるが、「教育旅行」についての記載がないので入れてほしい。京都へ教育旅行で訪れる旅行生を大津市へ誘導できないか。

事務局

教育旅行は重要と思っている。

基本計画への記載については今後調整していく。

第4期大津市観光交流基本計画の推進に向けて

事務局

DMO化や新たな財源の確保が本計画における大きな柱の一つと思っている。

委託事業者 *資料3参照

地域DMOは多彩な地元の企業などと連携をとりながら、司令塔とならなければいけない。

地域DMOと他DMOの違いは3ページのとおりだが、地域DMOの方がカバーする領域が広がっていると言える。

地域DMOの登録要件は4ページから11ページまでのとおりで、記載項目を全て満たさなければ承認されない。どの項目においても「できない」や「後々」は認められず、非常に厳しい内容となっている。

6ページのデータ収集・KPI/KGI設定についても同じで、必ず全ての項目が必須となっており、特にKPIは最低年1回集計・分析し、ビジネス的な示唆を出す計画も必要である。例に挙げられている気仙沼DMOは、上記を月に1回出している。

9ページの①②においては、勝手に意思決定をすることはできないため、資料冒頭に記載したような多種多様な業種の人材から構成された意思決定機関を設立し、協調して決めていくことが必要である。

10ページの⑧⑨においては、人材の定着や職場環境の向上に必要な項目となっている。

DMOは一般企業と違い、事業を進めながら考えることは許されていないため、事前準備をしっかりとる必要がある。

事務局

全国に 100 件の DMO を作ろうと言われたしたのは約 12～13 年前のことで、現在は国内に 300 件ほど存在している。昨年、個々の DMO の質の底上げが国の目標となり、ハードルが上がっている。

滋賀県にはびわこビクターズビューローと比叡山・びわ湖 DMO などがあるものの、大津市全域に特化したものはない。

発言者 A

この件に関して、ご意見ご質問はないか。
また登録の時期はいつ頃を想定しているか。

事務局

ハードルは上がることがあっても下がりほしくないので、早期に登録を目指したい。

発言者 A

今回で最後になるので皆様よりご意見をいただけないか。

発言者 B

観光協会の現状は、本計画を策定するにあたり、観光協会を DMO 化していくことについて理事会で決議されたところ。今後は、大津市や各種団体と話をしながら DMO 化を目指していきたい。

発言者 C

弊社としては、コンテンツ制作を担えるが、DMO としては京都と大津にまたがっているため「京都と大津をつなぐ担い手」としての役割を果たしていきたい。

地域を巻き込むことに関しては、びわ湖大津観光協会さんに協力していただいで進めていきたい。

発言者 D

地域プレイヤーとしては DMO を支えていけたらと考えている。

発言者 E

昨年から、京都に泊まって大津市に日帰りでサイクリングをするお客様が増えている。

ホテルからサービスの依頼もあり、需要が高まってきているのではないか。

今後は、定住の促進にも貢献していきたい。

発言者 F

今後の課題は、地域の観光ガイドの底上げである。

個人ガイドはスタートしやすいが発信力が弱いため、DMO として登録できればその辺りもカバーできるのではないか。

また、旅行会社などとの交渉力も弱いので、DMO が中に入れば単価の底上げもできるのではないかと。地域の人々が地域で稼ぐことが理想である。

発言者 G

石山寺などが継続して観光スポットとして定着してほしい。

本計画では、大津市の方向性をみんなで理解するとともに私たちは担う立場であるため、引き続き石山地域から大津を盛り上げていきたい。

発言者 H

DMO 登録を目指すには、強い決意を持ち計画的にやっていかなければいけない。

そして、各施設にメリットが必要ではないか。

また、大津市は DMO として何を目標していくのか明確にすることも大切。スケジュール感やゴールの設定が重要。

参画施設の対応についても明確にしてもらいたい。

発言者 I

財政としても組織としても、安定財源の確保がネックではないか。

宿泊税が DMO で使い勝手のいいように使われないか心配。目的・組織の体制を明確にし、合意をとってから進められるようにしてほしい。

現在、宿泊税を始めた地域も何かと大変だと聞いているので、導入する前にある程度考えておいてほしい。

発言者 J

新聞に宿泊税の件が載っていたので市民はある程度分かっているのではないかと。

税収が有効に活用されることが 1 番大切と思われる。

他にも、地域住民に地域の愛着を持ってもらうことも大切。そのために、市民に対して大津市の色々なこと（人や文化財など）をより発信することが必要かと思われる。

発言者 A

皆様方のご意見が全て反映できるわけではないが、第 4 期計画における重要項目の実現化にむけた対策などは講じていくべきではないかと思う。

発信力がどこの事業者も足りてないので、発信力や価値創造を DMO が担えると良いと考える。

その他について

・事務局より

3 月中に最終版完成予定

・大津市産業観光部長より挨拶